

[学術論文]

## 小学校英語テキスト出現語彙の意味領域による分析

西垣知佳子（千葉大学）

中條清美（日本大学）

西岡菜穂子（千葉聖心高等学校）

### The Classification and Analysis of Semantic Fields in English Elementary School Textbooks

Chikako Nishigaki

Chiba University

Kiyomi Chujo

Nihon University

Naoko Nishioka

Chiba Seishin High School

#### 1. 研究の背景と目的

2002 年以来、我が国の小学校では、「総合的な学習の時間」の一環として、各学校・地域で創意工夫に富む様々な英語指導が行われている。それに対して『総合的な学習の時間』という新しい器には、単なる技能教育を超えた新しい内容が盛り込まれた（松川，2004：17）と、小学校英語活動の効果を歓迎する意見がある。一方、「目標が定まっていない」「費やす時間と費用に見合う効果があるのか」等の慎重論もある（大津，2006；鳥飼，2006）。そのような中、2006 年 3 月には中央教育審議会外国語専門部会は、全国の小学校で英語を必修にすべきであるとの報告をまとめた。

近隣アジア諸国に目を向けると、日本と同様の英語学習環境にある中国、韓国、台湾では政府主導のもと、明確な英語教育の目標が定められ、日本よりも早く正式に小学校での英語教育が導入され、小中高の英語教育を連携させるナショナル・シラバスが存在する（樋口他，2005-a；小池，2006）。樋口（2005）は、効果をあげていないと批判される日本の英語教育の原因の一つとして、小学校、中学校、高等学校（以下、小中高）における一貫した英語カリキュラムの欠如があるとして、英語教育の実効をあげるには日本においても、小中高の英語教育に連続性を持たせることが必要であると指摘する。そして実際に樋口他（2005-b）はナショナル・シラバスの試案を、また伊藤（2004）は小学校英語の学習指導指針のモデルを提案している。

そのようなナショナル・シラバスや学習指導要領の策定の際には、重要項目の一つにと

のような語彙を指導するかという語彙選定の問題がある。語彙力は英語力の基盤と言われ（False, 2004: 23）、また早期外国語教育の中心は語彙力の育成である（Cameron, 2001: 72）と言われることから、一貫性のある英語教育の実現には語彙指導の連続性を検討することは不可欠であろう。

筆者らはこれまでに小学校英語テキスト<sup>1</sup>および中学・高校英語教科書に出現する語彙を広く収集、分析し、その上で各学校段階の語彙指導のコアと考えられるような「小学校基礎語彙」「中学校基礎語彙」「高校基礎語彙」を客観的に抽出した。そしてこれら3種の基礎語彙を比較し、小中高の学校教科書における語彙指導の連続性と効率性を定量的に観察した。その結果、小学校基礎語彙の過半数は、中学校基礎語彙および高校基礎語彙と重複することが判明した（中條・西垣・西岡・吉森, 2006; *The Daily Yomiuri*, 10/5/2006）。これらの上記研究は、小中高の教科書語彙の連続性を単語数の多寡から定量的に観察したものであり、次の段階として単語の意味を考慮した定性的観察が必要であった。

そこで本研究は、従来の定量的調査を進め、単語の「意味領域」という定性的な観点から、小学校英語テキストの語彙を中高英語教科書の語彙と比較し、小学校英語の語彙の特徴を明らかにし、また小中高の語彙指導の連続性を調査することを目的として行われた。<sup>2</sup>

## 2. 研究の方法

### 2.1. 言語資料

本研究の言語資料には、「小学校基礎語彙」「中学校基礎語彙」「高校基礎語彙」を使用した。これらは以下に述べるように、小学校、中学校、高等学校の英語教科書を網羅的に収集し、教科書中に「広く」「共通に」出現する最大公約数的な語彙を抽出したもので、日本の小中高の学校英語教育で指導される語彙の中核と考えられるものである。

- (1) 小学校基礎語彙：中学校英語検定教科書を出版する7社のうち5社から出版された小学校英語テキストおよび指導書に出現した異語数 2,703 語、延べ語数 85,078 語の語彙のうち、4社以上のテキストシリーズに出現した語彙を抽出して得られた 514 語を指す（中條他, 2006-a）
- (2) 中学校基礎語彙：平成 17～18 年度に使用された中学校英語教科書 6 シリーズ（合計 18 冊）に出現した、異語数 1,690 語、延べ語数 41,344 語の語彙のうち、4 シリーズ以上の教科書に出現した語彙を抽出して得られた 552 語を指す（西垣・中條・武内, 2005）
- (3) 高校基礎語彙：平成 18 年度に出版された英語、英語、リーディングの3種の高校教科書 16 シリーズ（合計 48 冊）に出現した、異語数 8,023 語、延べ語数 371,021 語の語彙のうち 12 以上の教科書シリーズに出現した語彙を抽出して得られた 1,089 語を指す（中條・西垣・西岡・吉森, 2006）

これらの語彙リストは筆者らのホームページより利用できる。

(<http://www5d.biglobe.ne.jp/~chujou/>, <http://www.e.chiba-u.jp/%7Egaki/>).

## 2.2. 小中高基礎語彙の比較

上記の小学校基礎語彙, 中学校基礎語彙, 高校基礎語彙を定性的に観察するために, 3種の基礎語彙がどのような意味領域に属する語で構成されているかを調査した。意味領域の分析には, 語彙の分類基準となる同義語・類義語を分類・整理したシソーラスのような「分類語彙表」が必要である。本稿では, *Longman Lexicon of Contemporary English* (McArthur, 1981; 以下 LLCE) を利用して, 基礎語彙中の各語の意味領域を分類し, 集計した。

LLCE では, 当該語が持つ一つあるいはそれ以上の意味が, どのような意味領域に属するかについて, 14 の上位領域とそれを詳細に分類した 129 の下位領域を知ることができる。例えば *lip* は上位領域として the Body: its Functions and Welfare に属し, 下位領域として the Head and the Face に属する。また, 動詞の *thank* は, 上位領域として Feelings, Emotions, Attitudes, and Sensations に属し, 下位領域は Happiness and Sadness に属する。複数の品詞や意味を持つ語の場合は複数の意味領域に属する。例えば *play* は動詞と名詞では異なる意味領域に属する。このようにして小中高基礎語彙に出現する全ての語彙, 計 2,155 語について, LLCE に基づいて意味領域による分類を行い, 各学校段階の語彙ごとに上位と下位の意味領域の構成比を調査した。<sup>3</sup>

## 3. 結果と考察

本節では, 小中高基礎語彙を LLCE に基づいて意味領域別に分類, 比較した結果を, 上位領域と下位領域に分けて考察する。<sup>4</sup>

### 3.1. 上位領域による比較

LLCE では英語の語彙を 14 の上位領域に分類している。それらを表 1 左から 2 列目に示した。本稿では把握しやすいように, 領域名には ( ) に示した略称を用いることとする。表 1 左 3 列目から 5 列目には, 小中高基礎語彙を構成する語彙の意味領域が 14 領域のどの領域に属するかを調べ, 14 領域の構成比 (%) を小中高ごとに示した。

次に, 14 のそれぞれの意味領域の語彙が小中高でどのような割合で現れているのかが一瞥して比較できるように, 表 1 の小中高基礎語彙における意味領域の構成比をレーダーチャートに示したものが図 1 である。図 1 では, 小学校基礎語彙は と色の濃い折れ線, 中学校基礎語彙は と色の濃さが中間の折れ線, 高校基礎語彙は と色の薄い折れ線で示されている。単位は%である。レーダーチャートでは, 基礎語彙に含まれる語彙が質的に同じ傾向であれば, 描かれる折れ線は類似した形状になり, 傾向が異なれば折れ線の形状にズレが生じて折れ線の距離は離れる。また折れ線が円心に近いほどその意味領域の語彙は不足していると考えられる。

表1 小中高基礎語彙を構成する意味領域の構成比(%)

上位領域(略称)	小	中	高
1 Life and Living Things (生き物)	8.9	3.1	3.8
2 The Body: its Functions and Welfare (身体)	6.0	4.4	5.1
3 People and the Family (人々)	7.5	8.2	8.4
4 Buildings, Houses, the Home, Clothes, Belongings, & Personal Care (建物)	5.7	4.9	4.3
5 Food, Drink, and Farming (食料)	8.2	3.8	2.9
6 Feelings, Emotions, Attitudes, and Sensations (感情)	5.5	7.4	8.2
7 Thought and Communication, Language and Grammar (思考)	8.2	11.2	11.3
8 Substances, Materials, Objects, and Equipment (物質)	4.4	3.0	5.0
9 Arts & Crafts, Science & Technology, Industry & Education (科学)	3.2	3.2	3.5
10 Numbers, Measurement, Money, and Commerce (計量)	4.9	5.8	6.4
11 Entertainment, Sports, and Games (娯楽)	9.3	7.8	7.2
12 Space and Time (時間)	11.6	13.8	10.3
13 Movement, Location, Travel, and Transport (移動)	9.4	11.2	9.9
14 General and Abstract Terms (抽象)	7.1	12.3	13.6

図1を詳しく見ると、生き物(Life and Living Things)と食料(Food, Drink, and Farming)の意味領域の割合が小学校で高く、中高で低くなっており、小学校と中高の構成比に大きな乖離があることがわかる。このことから小学校英語の語彙を強く特徴付けているのは生き物関連の語彙と食料関連の語彙と言えよう。生き物は児童の興味関心が高く、食料品は生活に密着しており、これらは児童の日常生活語であり、また直接的に知覚認識できる形を備えた具体物であると言える。

逆に、中高で割合が高く折れ線が外に突き出て、小学校では割合が低く折れ線がくぼんでいる意味領域に抽象(General and Abstract Terms)があった。また、小学校での割合自体は高いものの、中高と比べると割合が低いために折れ線の距離が離れているものに思考(Thought and Communication, Language and Grammar)があった。小学校と比べて構成比の差が大きいということは、その項目の語彙は中高の語彙を特徴付けていると考えられる。このことから抽象語と思考関連の語は中高語彙の特徴と考えられる。

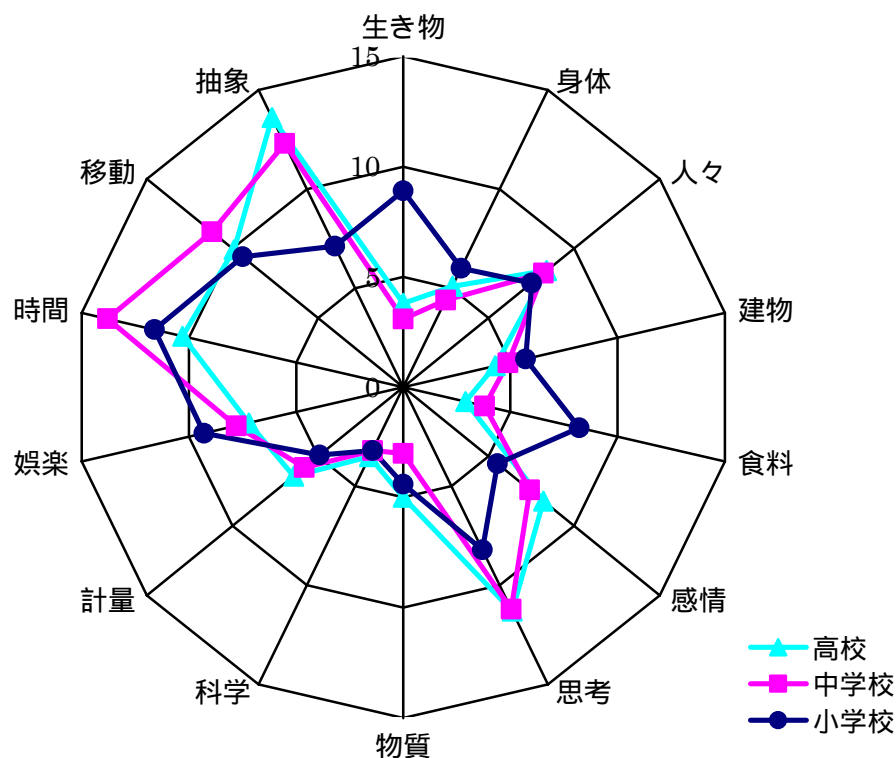


図1 小中高基礎語彙の意味領域による分類の結果 (%)

一般に言語の習得は、年齢とともに「具体」から「抽象」へ、「身近」から「社会」へと徐々に対象が広がる。図1を見ると中高と比べ小学校では、具体的で身近な「生き物」「食料」関連の語の割合が高く、中高では小学校に比べ「抽象」「思考」の割合が高かった。このことから小中高の英語教科書を語彙の面から捉えると、そのような教材配列がなされていることが確認された。

さらに図1を詳しく観察すると、小中高のいずれにおいても折れ線が外側に突き出て構成比が高くなっている項目に時間 (Space and Time) があった。この分類に属し、小中高に共通して出現する語には afternoon, morning, evening, night, day 等があった。これらの語には “Good morning” や “in the morning” のような定型表現の一部を構成するものがあり、「時間」の項目にはこのような小学校英語導入段階から繰り返し触れられている語彙が含まれていることがわかった。

小中高を通じて折れ線がくぼみ、語彙が不足している項目に科学 (Arts and Crafts, Science and Technology, Industry and Education) があった。この項目に分類された語のうち科学、技術、産業関連の語では、高校基礎語彙に science, technology, product, medical, develop, repair 等が見られる程度であった。日本の英語教科書では、これらの領域に属する語彙の扱いが少ないことが見て取れるが、これは英語教科書にこれらのトピックが少ないためと考えられる。小学校英語を観察した石川 (2007) においても同様に科学関連語が少ない傾向が報告されている。

以上の観察から、小学校英語には中高英語とは傾向を異にする独自の語彙が選定されていて、小学校英語を特徴付けている語彙は日常生活語であるらしいことが判明した。文部科学省発行の『小学校英語活動実践の手引』(2001)には、小学校英語では「子どもの日常生活の中の身近な英語を扱うことに重点をおくこと」(p.3)と記されていることから、日常生活語を特徴とする小学校英語はその目的にかなっていることが確認できた。

以上、本節では、上位領域の枠組みにしたがって小中高の教科書語彙の輪郭を捉えた。次に、小中高の指導語彙の特徴をより詳しく見るために、小学校英語を特徴付けている「生き物」「食料」、そして中高英語を特徴付けている「思考」「抽象」の4つの意味領域について、それらの下位領域を調査した。

### 3.2. 下位領域に見る小学校基礎語彙

小学校英語を特徴付ける意味領域のうち上位領域には、「生き物」と「食料」があった。そのうち「生き物」には、哺乳類、鳥、海洋動物、植物等の10の下位領域がある。その中で最も大きな割合を占めた下位領域は「哺乳類」(Animals / Mammals)であった。表2上段に示すように、「哺乳類」に含まれる語彙の具体例として cow, goat, pig, sheep のような家畜, dog, cat, hamster, rabbit のようなペット, monkey, gorilla, zebra, lion, tiger, elephant, giraffe, kangaroo, panda のような子どもたちが動物園, 図鑑, テレビ等で出会う動物があった。

上位領域の「食料」には、食品、飲み物等、7つの下位領域が含まれる。そのうち「食料」に含まれる小学校基礎語彙の半分近くが「食品」(Food)に属した。具体例としては表2下段に示すように carrot, cucumber, onion, potato, tomato, lettuce, pea, radish 等の野菜, meat, chicken, beef, pork 等の食材, curry, hamburger, soup, sandwich, salad 等の料理の名称, cookie, (potato) chip, cake, ice cream, pudding, candy, chocolate 等の菓子類の語があった。次に「食に関する物」(Food Generally)に分類されるものが多く, breakfast, lunch, dinner といった食事の名称, さらに eat, drink, have 等の動詞, hungry, thirsty といった形容詞があった。

表2 小学校英語に特徴的な語彙の例

生き物 (Life and Living Things)	
哺乳類 (Animals / Mammals)	cow, goat, pig, sheep, dog, cat, hamster, rabbit, monkey, gorilla, zebra, lion, tiger, elephant, giraffe, kangaroo, panda, etc.
食料 (Food, Drink, and Farming)	
食品 (Food)	carrot, cucumber, onion, potato, tomato, lettuce, pea, radish, meat, chicken, beef, pork, curry, hamburger, soup, sandwich, salad, cookie, (potato) chip, cake, ice cream, pudding, candy, chocolate, etc.
食に関する物 (Food Generally)	breakfast, lunch, dinner, eat, drink, have, hungry, thirsty, dish, fish, etc.

以上のような下位領域による観察から、小学校英語に特徴的な語の具体像が見えてくる。一方、我々の先行研究によると、日本人著者が日本人学習者用に編纂した教材で扱われる日常生活語は、英語母語話者が使用する日常生活語と比べると独自の特徴があることが確認されている（西垣・中條・岩楯，2006）。そこで、小学校英語の特徴としてあがった「生き物」「食料」に属する語を、「子ども英語母語話者の日常生活語彙」<sup>5</sup>と比較し、日本の小学校英語テキストで扱われる日常生活語を異なる角度からも観察した。

その結果わかったことには、「生き物」関連語では、cow, goat, pig, sheep, dog, cat のような小学校基礎語彙にある語は、英語母語話者の日常生活語彙にも含まれていた。しかし母語話者ではそれらに加えて、camel, hippopotamus, leopard, raccoon 等の哺乳類，eagle, flamingo, goose, owl, parrot, rooster, turkey 等の多彩な鳥，feather, horn, tail, wing のような動物の身体の名称等があった。このことから小学校英語テキストでは中高英語教科書に比べて動物に関する語彙は多く扱われているものの、英語母語話者の日常生活語彙と比較するとその範囲は限られていることが推測できる。これらの語は中高基礎語彙には含まれていないことから、小学校の時期を逃すと学ぶ機会がないことになる。

「食料」に関する語彙では、小学校基礎語彙に curry, sushi, omelet のような日本の子どもの嗜好を反映するような語があった。それに対して、英語母語話者の日常生活語彙には butter, cereal, yogurt, toast, honey, bean, nut, peanut, popcorn といった欧米の食文化を代表するような語があり、食に関連した語には食文化が強く反映されることが推測できる。日本の文化や生活習慣を捉えるような語彙は、日本人学習者の自己表現を豊かにすることから、小学校から取り入れたい語彙と考える。一方、食の多様化を考えると、後者のような語にも触れておくことも必要であろう。

### 3.3. 下位領域に見る中学・高校基礎語彙

次に、中学・高校教科書で扱われる割合が高く特徴的と考えられる「抽象」と「思考」について、それぞれの下位領域を観察した。「抽象」には度合，出来事，原因等の12の下位領域があり、「度合」(Size, Importance, and Availability)の項目の割合が最も高かった。表3上段に例を示すように、「度合」の項目には big, large, small, little のような「大きさ」，many, few, much, little のような「数量」，only, very, enough のような「程度」，both, either, every, each のような「限定」という事物や事柄を詳細に記述するための形容詞や副詞があった。

「思考」には 言語，文法，学習等，同じく12の下位領域があり，その中でほぼ同様の構成比で割合の高かったのは「文法」(General Grammatical Words)と「音声コミュニケーション」(Communicating, mainly by Speaking and Talking)であった。表3下段に例を示したが、「文法」には I, we, you, he, she, they 等の人称代名詞 how, what, where, which 等の疑問詞のような種々の機能的な語が含まれていた。そして「音声コミュニケー

ション」には意思疎通や伝達に関わる多様な動詞，例えば，call, say, speak, tell, talk, ask 等があった。

表3 中高基礎語彙に特徴的な語彙の例

抽象 (General and Abstract Terms)	
大きさ (Size, Importance & Availability)	big, large, small, little, many, few, much, little, only, very, enough, both, either, every, each, also, even, both, etc.
思考 (Thought and Communication, Language and Grammar)	
文法 (General Grammatical Words)	I, we, you he, she, they, how, what, where, which, who, why, that, the, but, from, still, no, yourself, everyone, everything, nothing, etc.
音声コミュニケーション (Communicating, mainly by Speaking & Talking)	call, say, speak, tell, talk, ask, answer, invite, agree, cry, shout, excuse, pardon, order, name, word, speech, question, etc.

上述の3.2の小学校で多く扱われる語の分析では名詞が多かったが，中高に特徴的な下位領域の語彙には動詞，形容詞，副詞が多かった。このことから小学校英語では名詞の学習が中心で，中高では動詞，形容詞，副詞の比重が増えることがわかる。この傾向は樋口他(2003)の調査結果とも一致するものであった。

#### 4. まとめと展望

本研究では，小学校英語テキストを中学・高校英語教科書に出現する語彙と比較することによって，小学校英語テキストの出現語彙の特徴の分析を試みた。その結果，意味領域の観点から見て，小学校で学ぶ語彙は中学・高校で学ぶ語彙とは異なる語彙が選定されていること，特に日常生活に関わる名詞が多く，なかでも哺乳類の生き物や食品に関連する語彙が特徴的であることが確認された。一方，中高英語教科書では抽象的な概念の語彙が扱われ，動詞・形容詞・副詞の種類が増えることが確認された。

このように小学校では中学・高校では学べない語彙を学ぶことから，小学校英語が中学校英語の前倒しでない独自の英語教育を行っている一面を捉えることができた。語彙習得は学習者の認知的・社会的発達と符合しながら進むことを考えると，語彙の中には小学校の時期にこそ学ぶにふさわしいものがあり，小学校英語はそのような語彙の拡大と補充という役割を担っていることも確認できた。

小学校英語ではその年齢にふさわしい様々な日常生活語を学べるものの，子ども英語母語話者の語彙と比べると種類が少ないこともわかった。小学校英語が学校英語教育の中で独自の役割を担っているのであれば，子どもの興味関心に合致した語彙選定には，工夫の余地がありそうである。また，食品関連語は，文化が強く反映されていることも確認され，



日本人学習者の自己表現能力を支える礎になるものと期待される。

筆者らが小中高の語彙指導の連続性を定量的に調査した先行研究では、指導の中核をなす語彙に重複が多いことを確認した。一方、今回の意味領域という観点からの調査では、学習者の認知的・社会的発達に沿った語彙の配列がなされている傾向があること、小学校英語が独自の役割を果たしているという特徴が見られることが確認できた。今後はこれらの研究成果を踏まえ、小中高一貫型の英語教育に資する具体的な語彙の選定と配列に関して研究を継続していきたいと考える。

#### 注

- 1 小学校英語は教科ではないため、小学校英語教科書と呼ばれるものはないという指摘があるが、本稿では文脈によって小学校英語テキストと小学校英語教科書の表現を併用する。
- 2 小学校英語では教科書は使わず、多様な英語活動が行われることが多い。そのため実際に教室でどのような語彙が扱われているのか、その実態を捉えることは難しい。そのような事情に鑑みた場合、現在出版されている小学校英語テキストおよび指導書に出現する語彙は、小学校英語で指導される語彙を推定するための一つの目安になるものと考えられる。
- 3 各単語を意味領域に分類するには、LLCE を基本データとして改良・開発されたプログラム(USAS)を利用することも可能である(<http://www.comp.lancs.ac.uk/ucrel/usas/>)。USAS は英文テキスト形式のデータを言語材料としてまず品詞タグを付与し、続いてそれに基づいて意味タグを付与するという手順を経る。USAS プログラムの開発者の説明によると、本稿の基礎語彙のようにデータが英文でなく単語リストの場合は、意味タグ付与の精度の低下が予想されるということである。そこで本稿では USAS は使用せずに LLCE を用いて分類した。
- 4 LLCE による分類では、小学校基礎語彙では 22 語、中学校基礎語彙では 12 語、高校基礎語彙では 45 語が分類されずに残った。それらの語についてはデータから除いて分析を行った。
- 5 「子どもの英語母語話者の日常生活語彙」は、1) 海外で編纂された英語絵辞書 20 冊に出現する語(中條他, 2005)、2) 英語母語話者の子供の話し言葉コーパスである CHILDES (Child Language Data Exchange System) (MacWhinney, 2000) から抽出された特徴語(中條他, 2006-b)、3) 英語母語話者の子どもがある語を習得する年齢に関して調査した Harris and Jacobson (1972) の *Basic Elementary Reading Vocabularies* と Dale and O'Rourke (1981) の *The Living Word Vocabulary* の調査資料を統合して選定した 500 語の語彙である (Chujo, Nishigaki, Utiyama, 2005)。英語母語話者の英語学習や英語使用を客観的に反映した語彙リストと考えられることから比較に活用した。

謝辞 意味領域の分類に際し、情報通信機構の内山将夫氏のご協力を得ました。また、茂原高等学校長谷川修治氏には貴重なご意見をいただきました。

#### 引用文献

Cameron, Lynne (2001). *Teaching Languages to Young Learners*. Cambridge: Cambridge University Press.

Chujo, Kiyomi, Nishigaki, Chikako and Utiyama, Masao (2005). Selecting 500 essential daily-life words for Japanese EFL elementary students from English picture dictionaries and a children's spoken corpus. *Proceedings of Inaugural International Conference on the Teaching and Learning of English in Asia*. Penang, Malaysia.

中條清美, 西垣知佳子, 内山将夫, 岩楯弘美, 山崎淳史 (2005). 「英語絵辞書の語彙」『日本大学生産工学部研究報告』38, pp. 77-105.

中條清美, 西垣知佳子, 西岡菜穂子, 吉森智弘 (2006). 「小学校英語活動用テキストの語彙に関する研究」『大学英語教育学会 (JACET) 45 回全国大会要綱集』pp.57-58.

中條清美, 西垣知佳子, 西岡菜穂子, 山崎淳史, 白井篤義 (2006-a). 「小学校英語活動用テキストの語彙」『日本大学生産工学部研究報告』39, pp. 79-109.

中條清美, 西垣知佳子, 内山将夫, 中村隆宏, 山崎淳史 (2006-b). 「子供話し言葉コーパスの特徴語抽出に関する研究」『日本大学生産工学部研究報告』39, pp. 65-78.

*Daily Yomiuri, The National corpus needed?* 10/5/2006.

Dale, Edgar, and O'Rourke, Joseph (1981). *The Living Word Vocabulary*. Chicago: World Book-Childcraft International, Inc.

Folse, Keith S. (2004). *Vocabulary Myth*. Michigan: the University of Michigan Press.

Harris, Albert J. and Jacobson, Milton D. (1972). *Basic Elementary Reading Vocabularies*. New York: The Macmillan Company.

樋口忠彦, 加賀田哲也, 衣笠知子, 金澤直志, 福智佳代子, 掛谷舞, 他 (2003). 「小・中連携に関する調査研究—カリキュラム・指導案集・テキスト等の分析を通して—」『英語授業研究学会紀要』12, pp. 3-30.

樋口忠彦 (編) (2005). 『これからの小学校英語教育 - 理論と実践 - 』東京: 研究社.

樋口忠彦, 泉恵美子, 衣笠知子, 加賀田哲也, 田邊義隆, 掛谷舞, 他. (2005-a). 「諸外国の言語教育政策と日本の外国語教育への示唆」『語学教育部ジャーナル』1, pp.1-61.

樋口忠彦, 田邊義隆, 衣笠知子, 泉恵美子, 大村吉弘, 掛谷舞, 他 (2005-b). 「小・中・高一貫のナショナル・シラバス試案 - 日本の英語教育変革のために - 」『近畿大学語学教育部紀要』5, 1, pp.75-137.

石川慎一郎 (2007). 「英語教育のための基本語をどう選ぶか—コーパス言語学からの視点」

『英語教育』2月号, pp.10-12.

伊藤嘉一(2004). 『小学校英語学習指導指針—各学年の目標及び内容』東京:小学館.

小池生夫(2006). 『第二言語習得研究を基盤とする小,中,高,大の連携をはかる英語教育の先導的基礎研究』平成16年度~平成19年度科学研究費補助金(基盤研究(A))中間報告書.

松川禮子(2004). 「小学校英語活動の現在から考える」『小学校での英語教育は必要か』(大津由紀雄編著) pp.17-44, 東京:慶應義塾大学出版会.

MacWhinney, Brian (2000). *The CHILDES Project: Tools for analyzing talk. 3rd Edition. 2: The Database. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.*

<http://childes.psy.cmu.edu/data/>

McArthur, Tom (1981). *Longman Lexicon of Contemporary English*. Essex: Longman.

文部科学省(2001). 『小学校英語活動実践の手引』東京:開隆堂出版.

西垣知佳子, 中條清美, 岩楯弘美(2006). 「海外・国内英語絵辞書の出現語彙とその比較」『英語表現研究』22-23, pp.33-43.

西垣知佳子, 中條清美, 武内仁(2006). 「小学校英語との連携に配慮した中学校重要語彙学習のための e-learning 教材の開発」『千葉大学教育学部研究紀要』54, pp.235-246.

大津由紀雄(編著)(2006). 『日本の英語教育に必要なこと - 小学校英語と英語教育政策』, 東京:慶應義塾大学出版会.

鳥飼玖美子(2006). 『危うし!小学校英語』東京:文藝春秋.